

(6) 老上学区

①まちづくりの方向性

①-1. 生活拠点の形成と交通環境の充実

・公共交通の充実や自転車が利用しやすい環境整備等を行うことで、更なる生活利便性の向上を目指します。

老上学区は、約6割のエリアが市街化区域に含まれる学区となっています。2010年（平成22年）の市街化調整区域内人口は約1,600人ですが、2040年に向けて大幅に増加する見込みであるほか、高齢化率は、現在、将来見通しにおいても相対的に低く、比較的若い世代が居住していることがうかがえます。

また、市街化区域に隣接して一体の市街地を形成することから、生活利便施設の徒歩圏人口カバー率は相対的に高い状況ですが、一方、医療、公共交通は相対的に低く、特に公共交通に関しては2割程度の状況です。

このような状況から、市民ニーズに応じた公共交通の充実や自転車が利用しやすい環境整備等を行うことで、更なる生活利便性の向上を目指します。

また、隣接エリアで開発が進む南草津プリムタウン地区の計画的な市街化整備とあわせて行われる（都）大江霊仙寺線の整備と一体となった利便性の高い生活環境づくりについて検討していくものとします。

①-2. 地域資源を活かした産業の支援

・古墳群等の歴史資源等の関連性や社会的ニーズ等を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討します。

老上学区には、観光資源としての古墳群や神社・仏閣等の歴史的資源が存在しています。ストーリー性のあるルート設定や各地域資源との関連性を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討していくものとします。

地域の現状・課題に係る評価		現状課題に関連する施策の柱と方向性		
高齢化率	○	→	1 生活拠点の形成	
医療	△			
高齢者福祉	○			
商業	△			
基幹的公共交通	△	→	2 交通環境の充実	重点 取組み
地域資源の活用の可能性	有	→	3 地域資源を活かした産業の支援	要検討

※ 【高齢化率】 「○」市街化調整区域の平均値より低い項目、「△」市街化調整区域の平均値より高い項目
 【医療・高齢者福祉・商業・基幹的公共交通】 「○」徒歩圏人口カバー率の平均値を上回る項目（平均値と同じ場合を含む）、「△」徒歩圏人口カバー率の平均値を下回る項目、「×」徒歩圏人口カバー率が「0%」の項目
 【地域資源の活用の可能性】 「大」豊富に存在し、活用の可能性が高い。「有」存在するが、活用には検討が必要。

②将来ビジョン

②-1. 交通環境の充実

・生活者のニーズに応じた基幹的・補完公共交通の充実（路線の配置）

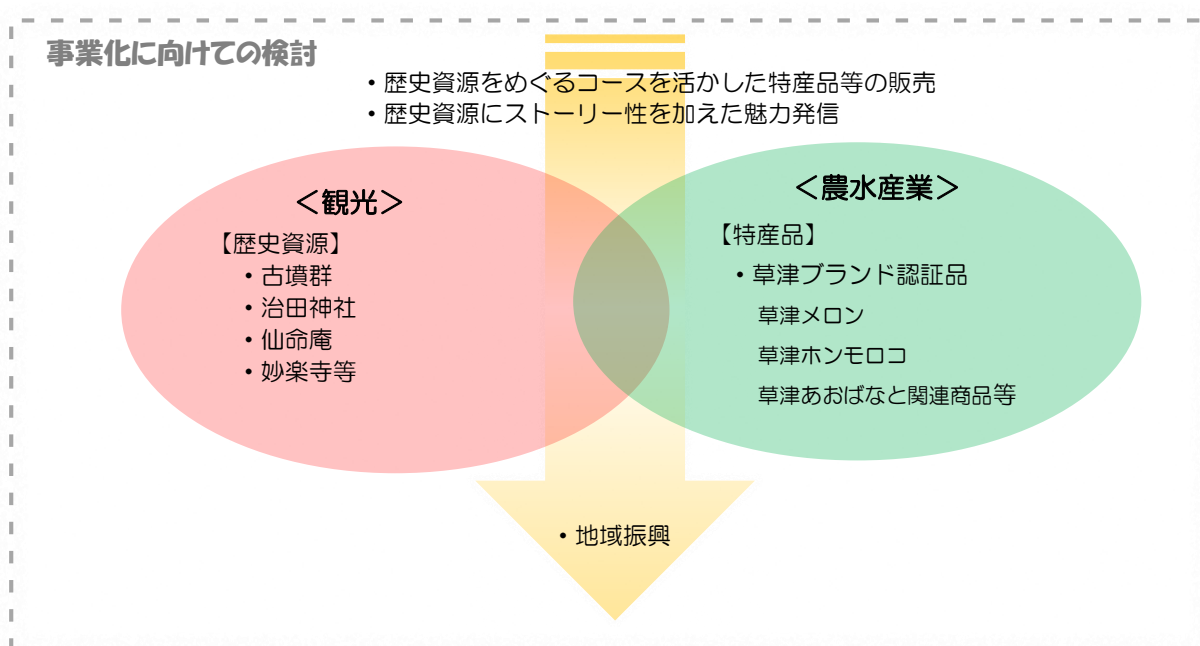
- ・南草津プレミアムタウン地区の整備や（都）大江霊仙寺線の整備にあわせた本学区と“まちなか”を結ぶ基幹的公共交通や補完公共交通（まめバス等）を充実します。（生活者のニーズに応じた路線の配置）
- ・隣接市域（大津市）と繋がる広域的なバス路線網の充実を図る取組みの検討します。

・歩行者・自転車交通の安全性向上

- ・“まちなか”へのアクセス道路の整備を推進します。

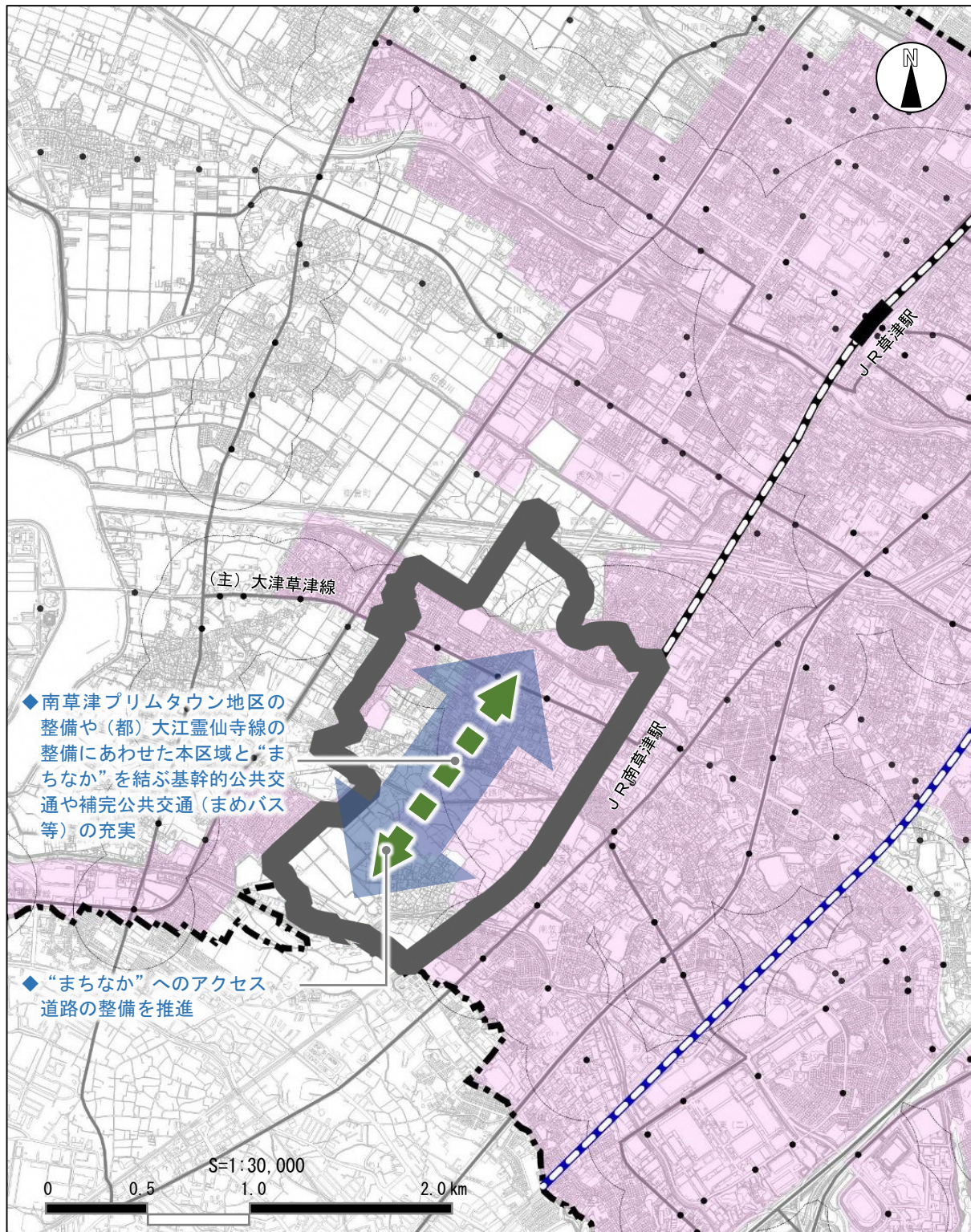
②-2. 地域資源を活かした産業の支援

- ・地域資源（観光、農業）を組み合わせることで地域活力向上を推進します。



※事業化に向けての検討内容は、将来的に普及、拡大されることを期待したものです。地域の中で、今後議論の対象となる可能性のあるものを記載しています。

老上学区 生活と交通に係る検討図



凡 例			
	学区界		バス停
	行政界		基幹的公共交通の徒歩圏
	市街化区域		基幹的公共交通の充実
	主要道路		まちなかへのアクセス道路の整備
	鉄道		

(7) 志津学区

①まちづくりの方向性

①-1. 生活拠点の形成と交通環境の充実

・公共交通の充実等を図ることで、更なる生活利便性の向上を目指します。

志津学区は、学区の西側が市街化区域となっています。2010年（平成22年）の調整区域内人口は約3,200人ですが、2040年に向けて大幅に増加する見込みであるほか、高齢化率は、現在、将来見通しにおいても相対的に低く、比較的若い世代が居住していることがうかがえます。

また、市街化区域に隣接して一体の市街地を形成することから、生活利便施設の徒歩圏人口カバー率は相対的に高い状況ですが、一方で、商業が相対的に低いほか、公共交通も市街化調整区域全体の平均を上回るものの50%未満で、特に山手エリア（馬場、岡本、山寺、山寺新田）は、公共交通の利用が不便な状況となっています。

このような状況から、特に山手エリアからJR草津駅や中心市街地を結ぶ（都）山手幹線へ至る経路を補完するバスや自転車等でのアクセス利便性を考慮し、市民ニーズに応じた公共交通の充実等を図ることで、更なる生活利便性の向上を目指します。

①-2. 地域資源を活かした産業の支援

・歴史資源や体験工房、ホンモロコの養殖やおおばな栽培地、クリーンセンターの余熱利用など、地域資源の関連性や社会的ニーズ等を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討します。

志津学区には、青地城址などの歴史的資源や草津焼の体験工房のほか、ホンモロコの養殖やおおばな栽培地、クリーンセンターの余熱の利用など、活用が期待される多様な地域資源が豊富に存在しています。

このような状況から、様々な地域資源の関連性や事業者ヒアリングの結果等を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討していくものとします。

地域の現状・課題に係る評価	現状課題に関連する施策の柱と方向性	
高齢化率 ○	1 生活拠点の形成	
医療 ○		
高齢者福祉 ○		
商業 △		
基幹的公共交通 ○	2 交通環境の充実	要検討
地域資源の活用の可能性 大	3 地域資源を活かした産業の支援	重点 取組み

※ 【高齢化率】 「○」市街化調整区域の平均値より低い項目、「△」市街化調整区域の平均値より高い項目
 【医療・高齢者福祉・商業・基幹的公共交通】「○」徒歩圏人口カバー率の平均値を上回る項目（平均値と同じ場合を含む）、「△」徒歩圏人口カバー率の平均値を下回る項目、「×」徒歩圏人口カバー率が「0%」の項目
 【地域資源の活用の可能性】「大」豊富に存在し、活用の可能性が高い。「有」存在するが、活用には検討が必要。

②将来ビジョン

②-1. 交通環境の充実

・ 基幹的公共交通と自転車等の乗り継ぎ利便性を高める交通拠点の形成

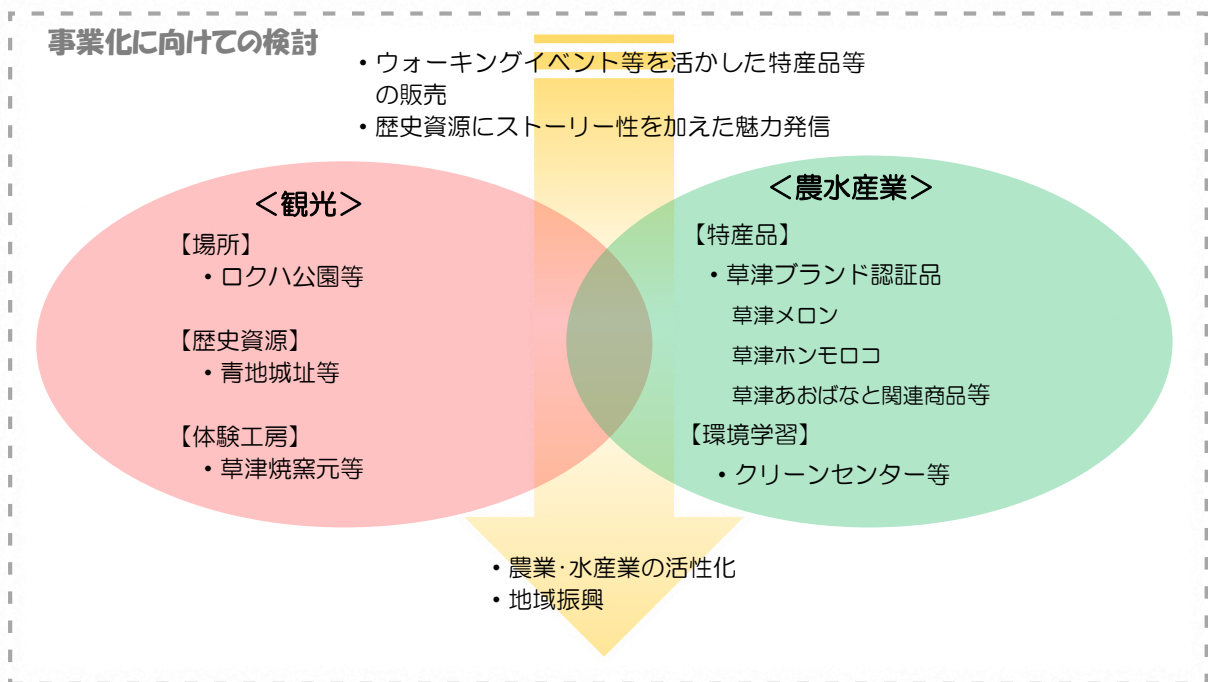
- ・ (都) 山手幹線の整備にあわせたバスと自転車の乗り継ぎ利便性を高めるサイクル&バスライドの設置を推進します。

・ 生活者のニーズに応じた補完公共交通の充実（路線の配置）

- ・ (都) 山手幹線の整備にあわせた山手エリアと“まちなか”等を結ぶ補完公共交通（まめバス等）を充実します。（生活者のニーズに応じた路線の配置）

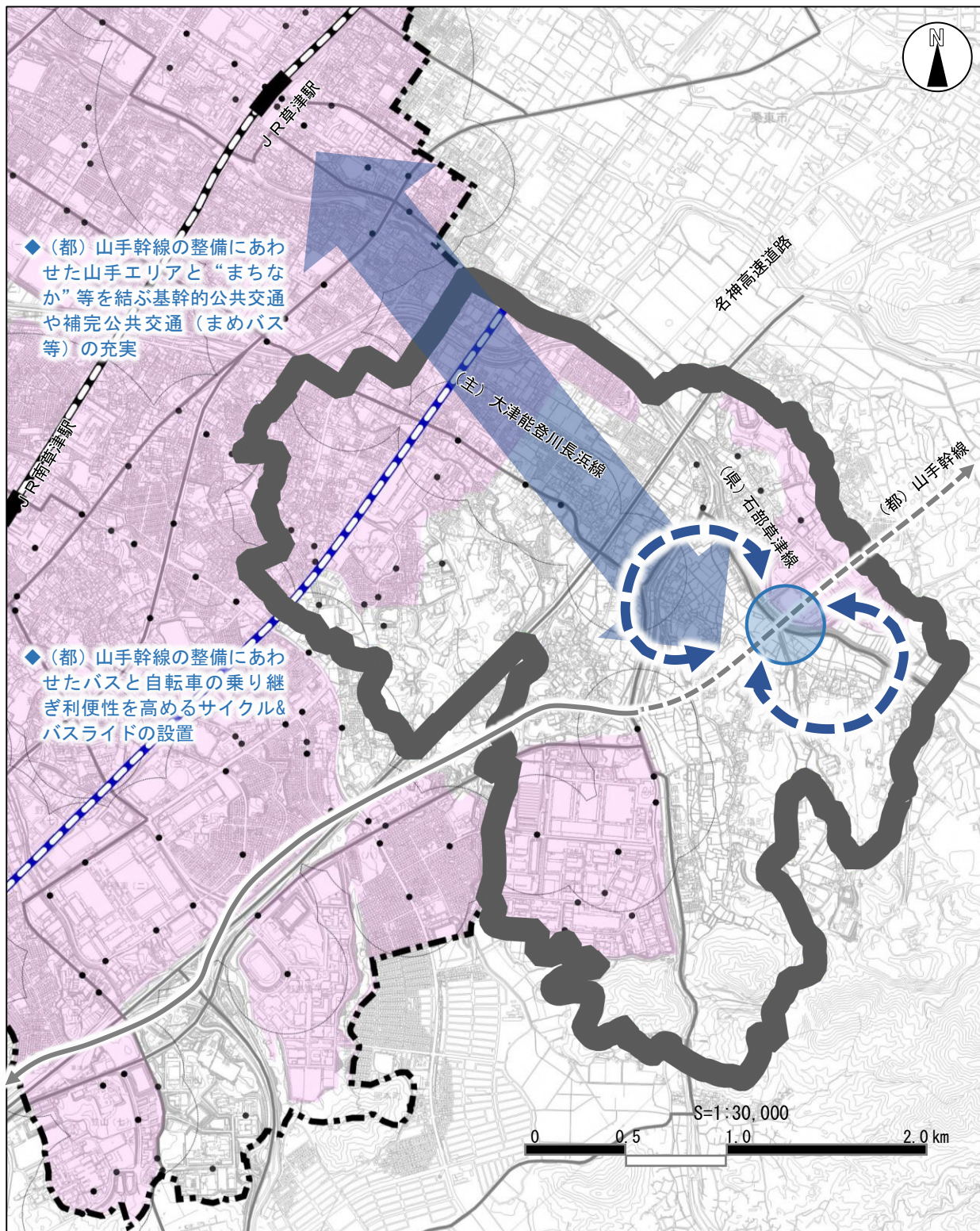
②-2. 地域資源を活かした産業の支援

- ・ 地域資源（観光、農業）を組み合わせることで地域活力向上を推進します。



※事業化に向けての検討内容は、将来的に普及、拡大されることを期待したものです。地域の中で、今後議論の対象となる可能性のあるものを記載しています。

志津学区 生活と交通に係る検討図



凡 例					
	学区界		新幹線		交通拠点
	行政界		バス停		基幹的公共交通の徒歩圏
	市街化区域		基幹的公共交通の充実		補完公共交通（まめバス等）の充実
	主要道路				
	JR 線				